

雲 北陵月報

No. 390

平成30年2月28日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

贈る言葉

学年主任 飯塚康弘



校庭の木々の芽も少しづつふくらみ春の気配が近づいてきました。3年生の皆さん卒業おめでとうございます。3年前に夢と希望を持って入学してきた皆さんも卒業の日を迎えることとなりました。過ぎてしまえば早い3年間ですが、それぞれに苦勞しながらも頑張り、それ乗り越えてきた3年間であったと思います。

新たな門出を祝福して私から言葉を贈りたいと思います。色々な経験を経て人間としての魅力を増した皆さんにどんな言葉を送るか迷いましたが、日ごろの授業や部活動の指導でも使っている「限界を作らない」にしたいと思います。人は目標を掲げ、それに向かって様々なことを積み上げ、目標を成し遂げていきます。部活動であれば優勝や最優秀賞に向かい、学業であれば定期テストや入試の好成績がこれに当たるでしょう。ただ、常に目標

が達成できるわけではありません。上手くいかず失意のうちに新たな目標に進んでいったこともあると思います。そんな失敗の積み重ねが、いつの間にか、自分にはできない、無理、これ以上できるはずない、といった自分の限界を作ってしまったのです。

今皆さんは出雲北陵高校での3年間を通してたくさんの力を蓄えてきました。自分が考えている以上の力やできることが身についていると思います。新たな場所で自分の思う通りにならない壁に突き当たることもあるでしょう。そんなときは決して自分には無理とは考えず、自分の持っている力を信じて物事に当たって欲しいと思います。

限界を作らず自分を信じて、多くの人に支えられ今の自分があることに感謝しながら、素晴らしい人生を作っていくって欲しいと願っています。

1組のみんなへ

三年一組担任

松井 仁志



ご卒業おめでとうございます。一緒に過ごした1組のみんなと、もうお別れだという現実をまだ実感できないのが正直な今の私の気持ちです。朝の教室に入ったときのあの賑やかなみんなの声がもう聞けないのは、本当に寂しい限りです。素直な心を持ったみんなと過ごしてきた日々は自分の生涯の大事な思い出です。

みんなは入学以来の3年間で、心身ともに成長し、近い将来きっと輝かしい花を咲かせることと信じています。これからみんなが体験していくであろう試練や苦難も「肥やし」に、大きな大きな花を咲かせていきましょう。皆さんの活躍をこの学び舎から心より祈っています。

未来からの留学生へ

三年二組担任

酒井 和隆



卒業おめでとう。冒頭に書きましたが、私はみんなを「未来から本校へ留学している、選ばれし人材」と考えています。

昔は、その人材に色々なことを教えるければならない!!と、次々に要望を出し、課題を与え、成長を促しました。しかし、あることをきっかけとし、前回のクラスからは、同じ目線でものごとに当たろうと方向転換しました。そしてみんなには、更に自分も同じ留学生になったつもりでやっていくことを考えました。その結果、各方面から苦情も多く寄せられましたが、私一人が留年し、立派に成長した36人を未来へ返すこととなりました。それぞれ失敗も経験したかもしれませんが、自ら学んだことを本当のステージである「未来」で生かしてください。そして

てまた、もう一度学びたいと考えたときは、いつでも訪ねてきてください。

人生は登山

三年三組担任

福岡 宣弘



卒業おめでとうございます。一昨年、37名で始まった3組でしたが、全員無事にこの日を迎えることができて本当に良かったと思います。正直これまでの道のりには山がたくさんありましたが、この37名の中で何らかの山を経験しなかった人はいないと思います。ただ、その山を見事に登って皆さん大きく成長し、また私自身も成長させてもらいました。そして、これからは社会の様々な場面で大きな山に遭遇することになるでしょう。それを乗り越え、また大きく成長していつまでたっても。皆さんの今後の活躍に期待します。

卒業おめでとう

三年四組担任

柳樂 正也



先日の出校日に久しぶりに皆さんの姿を見て安心する自分がいました。別れの時がやってきたからなのか、改めて皆さんと接することが私の日常だったと気づきました。

私は皆さんに熱く何かを説くということをしませんでしたが、最後に皆さんに伝えたいと思います。一生の付き合いになるな、と感じた人との縁は必ず大切にしてください。当たり前のことかもしれませんが、きっと皆さんの人生を豊かなものにしてくれるはずです。

最後に、離れていても皆さんの活躍を心より祈っています。

卒業おめでとう



三年五組担任
境 健吾

今から約3年前の4月、サン・レイク合宿で、希望と不安の入り混じった表情を見せていた皆さんとの出会いが、懐かしく思い出されます。その後、高校3年間をともしに過ごしてきましたが、このクラスの良いところは、何事にも素直に謙虚に懸命に取り組めることだと思えます。そして、どうかこれからもその姿勢を大切にしてください。そうすれば、今後困難な壁にぶつかるときが確実に訪れますが、必ず周りに手を差し伸べてくれる人が現れるはずですよ。最後になりましたが、私は笑顔で明るく過ごす皆さんが大好きでした。また、いつかお会いできる日を楽しみに、卒業おめでとう！

卒業おめでとう



三年六組担任
竹内 康貴

朝教室を覗くと、いつもの雑談や笑い声はなく、机と椅子だけが静かに佇んでいます。主達のいない教室を見るとただただ寂しさがこみ上げてきます。芸術コースの26名は、この3年間、学業に部活動に芸術活動に、よく努力し、互いに切磋琢磨し、高みを目指して成長しました。そして、皆さんは本校に素晴らしい足跡を残しました。本校で培った経験と出雲北陵高等学校卒業生としての誇りを胸に、『柔しく剛く』、立派な社会人になってください。そしていつまでも変わらぬ君達でいてください。

いよいよ巣立ちのとき。皆さんとの別れは辛く寂しいですが、私も皆さんと一緒に新たな一歩を踏み出そうと思います。卒業、おめでとう！

進学状況

島根大、山口大、福教大などに
9名合格！私立では早稲田大も

1月に実施された大学入試センター試験の結果を受けて、センター試験を課す推薦・AO入試の結果が発表され、島根大学教育学部、人間科学部にそれぞれ1名が、また島根県立大学看護栄養学部には2名が見事合格を果たした。これにより、今年度の国立大学合格者は9名となり、二桁達成も目前となった。私立大学でも難関の早稲田大学に合格を決めるなど、今年度3年生の健闘が光る。残る国立大個別試験に向けて、今一度気を引き締めて臨んでいきたい。

(国立大学 今年度の合格校)
島根大学(4名)・山口大学・福岡教育大学(2名)・島根県立大学(2名)

島根県スポーツ功労者賞 受賞
山陰中央新報社賞 受賞

去る2月8日、サンラポールむらくもにて平成29年度島根県スポーツ功労者表彰が、2月19日に山陰中央新報社にて平成29年度山陰中央新報スポーツ優秀選手賞の表彰式が行われ、本校高校生では吉川直人(ソフトテニス)、岩田史加(ボクシング)、石飛涼子(なぎなた)が、中学生では森本あか音・片岡まりも(なぎなた)が受賞。両表彰は全国大会2位以上の受賞規定の中、本学園から5名の選手が受賞していることは非常に喜ばしいことと思えます。今回の受賞が全生徒の励みとなり、各部が高目標を持ち取り組んでいけたらと思います。支えてくださった保護者の皆様に感謝いたします。



卓球部

第45回全国高等学校卓球大会中国地区予選会

時 2月2~4日
於 カマアリーナ

中国選抜6年ぶり2回目の優勝！
全国選抜出場決定！

【男子団体】

予選リーグ	本校	3-0	岡山実業岡山
	本校	3-1	宇部工業山口
	本校	3-0	松徳学院島根
決勝リーグ	本校	3-0	早稲田山口
	本校	3-0	呉青山(広島)
	本校	3-0	広島商業広島
	本校	3-0	近大福山(広島)
	本校	3-0	関西(岡山)
	本校	3-0	鳥取敬愛(鳥取)

○大会総評

井上、津村、山本、武の1年生のみのメンバーで臨んだ。優勝候補であるがゆえのプレッシャーがあり、大会が始まってから調子が落ちた選手もいたが、団体戦で最も重要なダブルスで全勝できたことが優勝へと繋がった。だが、優勝したとはいえ、まだ課題は多い。技術・戦術・メンタル・フィジカルの全ての面を向上させ、全国選抜では入賞を目指して頑張りた



(顧問 古瀬泰之)

男子バスケ部

中国高等学校バスケットボール新人大会

時 2月9~11日
於 松江市総合体育館

男子3位入賞！女子善戦及ばず

当日は、部長を務めた手島由梨(35歳)が代表として表彰された。その後、手島部長が「4月からはそれぞれの進路に向かうが、インターアクトクラブの活動を通じて得たことを今後に繋げていきたい」と挨拶した。



時 2月4日
於 出雲ロイヤルホテル

先般、出雲南ロータリークラブの例会が出雲ロイヤルホテルで開催された折、本校インターアクトクラブ3年生が表彰された。今年度表彰を受けたのは11名であった。

出雲南ロータリークラブの表彰

平成29年度高校サッカー新人大会

【男子】

1回戦	本校	90-69	広島観音
2回戦	本校	65-51	宇部工業
準決勝	本校	59-71	広島皆実
1回戦	本校	59-65	鳥取城北

【女子】

1回戦 本校 0-3 開星高校

時 2月3日
於 松江商業高校グラウンド

1回戦 本校 0-3 開星高校

○大会総評
開星高校の方がチームとしての完成度が高く、厳しい試合展開となった。本校も惜しい場面はあったが、結果として敗退してしまった。次の大会に向けて、チーム一丸となって頑張りた

(顧問 松井仁志)

全国高等学校家庭科技術検定

第46回食物調理技術検定

(3級合格者)

尾添志保(23勝)、渡部早紀(23勝)

第34回保育技術検定

(2級全種目合格者)

山根かえで(32勝)、三島優奈(24勝)

(3級全種目合格者)

渡部こずえ(32勝)、竹下佳南子(21勝)

合唱部

第29回松江プラバ室内合唱コンクール

時 1月28日

於 松江市総合文化センタープラバホール

高等学校部門 銅賞

3年生が引退し、新体制での初のコンクールであった。定期試験や入試等の時期と重なり、思うように練習時間が確保できない中、部員達は精一杯練習に励んだ。今年度の結果は銅賞であった。更なる演奏の向上を目指し、日々練習に励みたい。
(顧問 渡部純乃)

吹奏楽部

第41回全日本アンサンブルコンテスト中国大会

時 2月4日

於 島根県民会館 大ホール

・金管8重奏 銅賞
第7旋法によるカンツォン

第2番/G、ガブリエリ

大会当日は悪天候で調整が大変であったが、メンバーはよく努力し、本番では本校らしい素晴らしい演奏を披露した。

結果、銅賞を受賞した。悔しい結果となったが、今後の課題が明確になったことは、大きな収穫であった。この貴重な経験を糧に、更にレベルの高



い演奏、そして皆様に愛されるバンドを目指し、日々精進していきたい。
(顧問 原田 実)

美術・CGデザインコース

第17回出雲北陵高校卒業制作展

時 2月3・4日

於 出雲文化伝承館

美術・CGデザインコースの3年間の集大成である卒業制作展が出雲文化伝承館で行われた。悪天候に見舞われ、来場者数減少が懸念されたが、例年並みの200人の来場者があり大変うれしく思った。本年は「Ovation」をテーマに、お互いの個性が輝くようにと思いながら、制作、運営、広報と1年をかけて準備してきた。会場は見やすく上品な雰囲気の中、個性あふれる作品が並び、爽やかな良い展覧会となった。今後はそれぞれの進路に別れていくが、この3年間を糧に更なる飛躍を期待している。開催に当たり、ご支援いただいた皆様に厚く御礼申しあげます。



美術部

高文連出雲地区彫刻講習会・コンクール

時 1月25・26日

於 島根県立青少年の家

高文連主催の出雲地区彫刻講習会・コンクールに21名の部員が参加した。

山口功先生を講師に迎え、粘土による自由テーマでの塑像制作を行った。自由制作とはいえ、コンセプトをきちんと考えて制作することが大切であると教えていただき、皆熱心に制作に励んだ。



優秀作品 中島歌穂(16勝)
中山七海(26勝)

卒業直前講座

卒業式を目前に控えた3年生が、卒業直前講座を受講した。この講座は、本校教育活動の締めくくりに講座として毎年開催しているもので、初日は人権・同和教育について行った。講師には「源氏蛍の会」代表の三浦成人先生をお迎えし、「生き生き」ということという演題でお話をいただいた。約1時間30分の講演であったが、実体験を基にしたお話で、心を揺さぶる内容に、生徒達は真剣に耳を傾けた。この講座で学んだことを生かし、更に大きく成長して欲しい。



中学校

卓球部

第11回中国中学校選抜卓球大会

時 2月3・4日

於 山陽小野田市民体育館

(男子団体)
優勝(3年連続4回目)
予選リーグ 3勝0敗
決勝リーグ 7勝0敗
○大会総評



団体メンバーの人数が足りないところを、卓球部以外の2名の生徒(本田真央(2勝)、藤江誉(2勝))に協力してもらい大会へ参加することができた。2人の協力なくしてこの結果はなかったと思う。心から感謝したい。
(顧問 相場翔太)

中学二年生スキー研修

時 2月7日
於 琴引フォレストパーク

本年度も中学2年生がスキー研修を実施した。大自然の雄大さを満喫すること、スキーの基礎的な技術の習得・向上に励むこと、集団行動の中で互いに協力することを目的として臨んだ。当日は晴天にも恵まれ、絶好のスキー日和の中、研修を行うことができた。

多くの生徒がスキーをすることが初めてであったが、インストラクターの方の丁寧な指導のもと、スキーの基礎技術を学び、ほとんどの生徒が一人で滑れるまでに上達した。



第5回合同道徳

時 2月5日
講師 菅田修司 教頭先生

教頭先生から「自分のことが好きですか」と聞かれ、私はあまり好きではない方で手を挙げました。自分自身を出せていないように感じるからです。自分を好きになれるように自分の欠点を少しずつ日々の生活で直していきたいと思います。また、話の中で、自分が努力し、頑張ると相手にも喜びが生まれることを知りました。更に、人と比べず、自分自身と向き合っていくことが大切だと分かりました。もう一人の自分を見つけ、今までは違う自分になれるよう頑張りたいと思いました。今回はとても大切なことをたくさん知ることができたので良かったです。



堀田 凜(12勝)

作品と研究

礼法を学んで

山根絵梨香 (11歳)

礼法では実習の他に、先生方がたくさんのお話をしてくださいます。創立者である水谷キワ先生の話を孫にあたる千枝子先生から聞いたとき、とても印象に残ったのは、お風呂のことでした。千枝子先生が小さいときはとても苦勞されたそうです。私はお風呂などは電気であらう時代で育っています。しかし、キワ先生の時代は電気などではなく、自分達で一からお湯を沸かされたそうです。

千枝子先生が子供の頃は、学校の生徒さんも一緒に住んでおられたそうで、先生の家族は4人が4畳半でという過酷な状態で生活され、お風呂にも入れなかつたときがあるという話を話してくださいました。しかし、小さい頃に苦勞しているからこそ今がある、という言葉に私は心を打たれました。「苦勞すればその分、自分の人生を造り、優しく剛くが育つ」という言葉にも耳を傾けることができました。

この礼法は、今学生のうちにやっておくと将来必ず役立つともいいものだと私は思います。もっと礼法を学びたいと思います。

山本 駿介 (12歳)

礼法という授業は初めてだったので、毎時間を大切にしようと思いつつながら授業を受けました。基本的な作法についての実習や、水谷千枝子先生が来ておられるときはお話を聞いたりしました。その中で心に残っていることが二つあります。一つは、「姿勢」のことです。きちんとした姿勢からスタートをすれば、次の動作もきれいにできます。私

は猫背なので、普段の生活でもっと意識していこうと思っています。

もう一つは、毎日一つずつ何かをするということ。毎日新しい何かをすることを一年間続けられれば、三六五個も新しい体験をすることができそうです。昨日の自分より一歩進化した自分になることを継続したいと思っています。

礼法で学んだことは全て将来社会に出たときに役立つと思います。これまでに学んだことをもう一度思い出し、自分を成長させて行きたいと思っています。

三代 魁生 (13歳)

一年間、礼法を学び、今までの自分の姿を見直すことが多くなりました。自分が正しいと思っていたことが、他人にとってはおかしいことだったり、自分がおかしいと思っていたことが、周りでは普通であったりするなど、色々な発見がありました。授業で聞いた話で印象に残った言葉は、自分で考えてそれを実行するという言葉でした。これは、他人に頼らない、ということ。一人で物事をこなすので経験が増え、心が強くなります。そして、勇氣や自信がついてすぐに行動に移せるようになり、人の役に立つことができるようになるからです。

これから生きていくうえで、この言葉を忘れないようにしたいと思っています。礼法で学んだことを日々の生活に生かしていけたらよいと思いました。

日野 愛理 (14歳)

初めての礼法の授業の時、なぜ当たり前のことを授業でする必要があるのか疑問に思いました。しかし、授業を受けていくうちに、その当たり前ができていないと気づき始めました。例えば礼の仕方。挨拶や授業の始めと終わりの式などです。礼を全て同じようにしていましたが、それぞれの場面に合った

礼の仕方があるのを知りました。そして相手に失礼のない礼を徐々にできるようにになりました。実際に行動に移して礼法という授業の必要性を感じました。まだまだできていないことが多いので、当たり前のことを、当たり前にできるように日頃の行動や態度に気を付けて生活します。

また、北陵高校の創立者である水谷キワ先生は、現代の私達の便利な生活とは正反対の生活をしておられたと聞きました。だからこそ、人とした大切なお話を学ぶことができたのだそうです。私達は、便利な暮らしに頼りすぎず、自分で考えながら、校訓である「優しく剛く」にふさわしい人になれるように努力していくことが大切だと思います。

郷原 隼人 (15歳)

私は北陵高校に入学して初めて「礼法」という授業を知りました。礼法は本校が女子高校時代に始まったものだと聞いてとても驚きました。礼法の中でも、「礼」に関してはとても自分のためになりました。「礼」には「普通礼」、「会釈」、「最敬礼」といった三つの仕方があり、その時々で使い分けるといってことを学びました。人とすれ違うときの礼はタイミングをつかみにくく難しかったです。また、「衣服のたたみ方」は、実習の中で最も苦手なものでした。今までの自分のたたみ方とは全く違う学んでからはとても整いきれいに見えるようになりました。授業のときだけでなく、更衣をするときは気をつけるようにしています。その他にもたくさんありますが、この授業は自分が生きていく中で大切なことを教えてもらったことができたかと思っています。

また、水谷先生が来られたときは必ず北陵高校の歴史など、私達の知らないことをお話しされるので毎回楽しみでした。この一年、礼法の授業を受けて

自分が少し成長できたと思います。今後も学んだことを生かして生活したいと思います。

直良 友夏 (16歳)

初めて学んだ礼法では当たり前のようなことが難しくできなかったことがありました。しかし、社会に出れば大切なことばかりで、入学試験や入社試験の際にも役立つことがたくさんあると思います。だから、礼の仕方や起立の姿勢は日頃の生活から実践して忘れないようにしていきたいです。礼法の顧問の水谷千枝子先生は、時々授業の中で創立者の水谷キワ先生についてのお話をしてくださいます。その中で私が印象に残っているのは、キワ先生が宮中の宮使い(女官)になるための試験で最後の三人まで残られたというお話です。礼儀作法、言葉遣いなどとてもきちんとしておられ厳しそうな方だと思いました。だからこそ、学校を創るなどという偉業をされたのだとも思いました。

最後に、私は今年一年間、礼法の授業で慣れないことや戸惑いもありましたが、自身を成長させることができました。一年間ありがとうございました。



今月の
1枚

「語り」 福島 悠太 (12歳)